

当社は、多様化する環境問題に、バリューチェーン全体で持続可能な社会の形成に貢献していくとともに、「エコチャレンジ2030」および「レンゴーグループ環境アクション2050」を策定し、「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることに挑戦する」との長期目標を策定しています。

今回の計画では、バイオマス燃料ボイラの新設、ガスエンジン発電設備の導入、燃料転換（重油→LNG）に伴うボイラ更新や太陽光発電設備の導入および製造設備の改造に伴う投資での生産性改善を実施し、当社の炭素生産性を14.8%向上してまいります。

<事業適応計画の概要>

1. 事業適応計画の実施期間

2022年6月～2024年3月

2. 生産性向上目標・新需要開拓目標

炭素生産性を14.8%以上向上させる。

3. 前向きな取組みの内容

- 計画初年度、利根川製紙工場ではバイオマス燃料主体の流動層ボイラを新設。また、ライナ専抄4号抄紙機の設備改造による生産性改善によりCO₂排出を削減する。
- 尼崎工場では老朽化した焼却炉の更新により、コージェネレーション設備での都市ガス使用量を削減する。
- 計画2年度目は、利根川製紙工場にガスエンジン発電設備の導入および、性能低下した既設復水タービン発電機のローター更新、愛媛東温工場における太陽光発電設備の新設や、コルゲータ・ボイラの更新、八潮工場での7号抄紙機の設備改造により原紙製造に係るCO₂排出原単位を改善する。

4. 支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

<取組みの内容のイメージ>

「レンゴーグループ環境アクション2050」を2021年4月に策定
～2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとすることに挑戦する～



2050年に向けた環境への取組み

